協同

小山展弘後援会報
令和二年
8月1日号

＜編集・発行＞
小山展弘後援会
〒438-0078
磐田市中泉 656-1
TEL ; 0538-39-1234
FAX ; 0538-39-1235

～ブレずにまっすぐ！～

前衆議院議員

小山のぶひろ

氏に訊く

新型コロナウイルス対策と今後の日本社会

新型コロナウイルス禍は、日本経済・社会のみならず世界中に大きな影響を与えています。経済面においては、外出自粛や経済の停滞が、飲食業や観光業、小売業に限らず、耐久消費財に至るまでの消費不振や経済不況を引き起こしています。苦境にある産業に対しては休業補償や持続化給付金等の政策によって倒産や解雇をできる限りとどめるとともに、不幸にして職を失ってしまった方々が生活できるように政府がしっかりと支援する必要があります。

疫病が社会や経済のあり方に大きな影響を与えた歴史がありますが、新型コロナ禍も中長期的に、多くの人の働き方にも影響を与えると考えられます。もちろん、製造業の製造現場などテレワークなどが成立しない業種や業務も多々あり、これらについては大きく変わらないとも考えられます。変化ばかりに目を向けて、変化しないことについて目を向けなくなってはいけないと思います。一方で、ビジネスでの出張や本社での会議などは減少すると思います。これまで「顔を合わせた方がよい」と定期的に会議を行ってきた企業や団体でも、コロナ禍でWEB会議を導入せざるを得なくなりました。新型コロナ禍が終息しても、移動費や移動時間のコストを削減できることからWEB会議の形態が継続すると考えられ、ビジネスでの長距離移動や出張のニーズは減少すると思います。また、製造業でも、業務によっては在宅勤務が導入されていますが、特段の問題がなければ、コロナ前の勤務形態に戻ることはないと思います。「通勤時間を自分の時間にすることができた」という声も聴きました。首都圏においては、地方に在住してテレワークをするというところまでの急な変化はまだ見られないものの、「会社に毎日出勤しなくてよいのならば、より家賃の安い郊外に引っ越して、時々出社する生活にしたい」という生活スタイルを希望する声も聞くようになりました。業務や業種によっては、私たちの働き方は大きく変わるかもしれません。

「地方に住むことは効率の悪いことだ。なんでこんなところに人が住んでいるんだ」と竹中平蔵氏は四国のある県で発言しました。しかし、都市に集中して居住する、いわゆるコンパクトシティやそれに類する構想は感染症に対して脆弱であり、少なくとも地方から都市への集住を政策誘導することは見直す必要があると思います。感染症の流行は、今回は百年ぶりと言われましたが、温暖化の進む地球において、次の感染症流行は、もっと早いサイクルになるかもしれません。感染症が流行することを前提とした生活のあり方、生き方も考えていく必要があると思います。

コロナ禍は、私達が「人間らしい生活を取り戻す」「人間性の回復を考える」契機であるとも考えられます。不要不急の外出や出張を減らすことで、「家族とゆっくり過ごす時間を得たこと、焦らず、急がず、今という瞬間を味わい、大切に過ごすことのきっかけとなった」とおっしゃる方もいらっしゃいました。成長しつつも、人間性の回復を図り、幸福を感じられる働き方が求められていると感じます。働き方の変化は、私たちの生き方や価値観にも大きな影響を与え、変化をもたらすかもしれないと思います。

前衆議院議員　小山展弘